

○計画期間:令和5年4月～令和10年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、平成20年度に第1期計画がスタートし、第1期計画では駅南地区の活性化、第2期計画では駅北地区の活性化を大きなテーマに掲げて取り組み、BiVi 藤枝やオーレ藤枝、藤枝駅前一丁目8街区市街地再開発事業（フジエダミキネ）等の拠点整備が実現。こうした成果として、全ての目標指標を達成してきた。第3期計画は、開発段階からまちの熟成段階へと移行し、暮らしや交流の場としての向上を目指し、目標指標として「居住人口[社会増]」、「空き店舗数」、「昼間の歩行者通行量」、「イベント来場者数」を掲げたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により「空き店舗数」、「昼間の歩行者通行量」、「イベント来場者数」については目標未達となった。

令和5年4月策定の第4期計画では「魅力溢れる暮らし 賑わい広がる しずおか中部の生活・創造拠点」というテーマで、安全・快適・便利なスマートコンパクトシティを推進し、コワーキングスペース未来共創ラボや藤枝市産学官連携推進センター等と連携してビジネス拠点としての地位を高めるほか、エリアの日常的な賑わいを創出すること等を方針とし、この方針のもと様々な事業を実施している。

新型コロナウイルスの影響はほぼなくなり、これまでの日常生活が戻ってきた中で、中心市街地の賑わいを目的とした「駅周辺広場・道路空間創出事業」においては従来並みのイベント内容や規模で実施でき、賑わいのある空間が戻りつつある。また、空き店舗を利用した開業を支援する「街なかストックリノベーション事業」を活用して、藤枝を代表する食文化の1つである「朝ラーメン」の店舗が駅前に出店するなど、空き店舗を活用した出店も動きがあるほか、「駅前一丁目6街区市街地再開発事業」や「駅前一丁目9街区市街地再開発事業」についても順調に進捗していることから、様々な事業が4つの目標指標の達成に寄与する好循環が生まれつつある。

今後も計画に位置付けた事業を推進し、目標指標の達成はもとより、基本方針である「イノベーションを生み出す、魅力溢れる生活・創造空間の創出」と「人と人、人と街がつながり、多くの人々で賑わう交流空間の創出」の実現を目指していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度 12 月 31 日)

(中心市街地 区域)	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
人口	11,246	11,080				
人口増減数	▲18	▲166				
自然増減数	▲18	▲41				
社会増減数	1	▲133				
その他 (帰化・職権処理等)	▲1	8				
転入者数	713	634				

(2) 地価

(単位：円/㎡)

住居表示	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
駅前 2-7-27	149,000	150,000				
前島 2-1-4	156,000	157,000				
前島 3-6-20	103,000	104,000				

2. 令和5年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

新型コロナウイルスの影響が薄れ、経済活動や人の動き、イベントの再開など、これまでの生活が戻りつつあるが、4つの指標のうち「居住人口[社会増]」と「昼間の歩行者通行量」は目標値から後退する結果となった。「居住人口[社会増]」については、令和3年以降、マンションなどの集合住宅の建設が鈍化し、新たな受け皿がなかったため転出超過となった。今後予定されている市街地再開発事業によって人口増加が期待されるが、中心市街地の居住環境や利便性を向上させるとともに、商業店舗が共存し、成長していけるようなまちなみ形成が求められる。「昼間の歩行者通行量」の減少については、商店の経営に大きな打撃となる。中心市街地には映画館や図書館、魅力的な公園など、集客力のある施設が点在しているため、商店街などと連携して、回遊したくなる仕掛けを構築していく必要があると考える。

一方で、「空き店舗数」と「イベント来場者数」については、改善が見られたことは良い兆しであり、「空き店舗数」については、経済活動の再開とともに新規出店の動きが見られ、賑わい創出の一助となっている。「イベント来場者数」についても目標値を上回る結果となった。これらのプラス要素を地域に波及させていきたい。

今後も計画に掲載された事業を推進するとともに、行政と民間、地域が連携することで、中心市街地の活性化に取り組んでいきたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
多様な都市機能の集積による、街なかの魅力向上	居住人口 【社会増】	111 人/年 (H25～R3)	119 人/年 (R5～R9)	▲133 人/年 (R5)	C	-	①
各拠点の有機的な連携による、持続可能なビジネス環境の構築	昼間の歩行者 通行量	7,676 人/日 (R1)	8,022 人/日 (R9)	5,415 人/日 (R5)	C	-	①
良好な景観形成と伴走型支援による、エリアの求心力向上	空き店舗数	55 件 (R3)	47 件 (R9)	53 件 (R5)	B	-	①
既存ストックの活用による、多世代が集う賑わい再生	イベント 来場者数	54,371 人/年 (R1)	54,600 人/年 (R9)	60,519 人/年 (R5)	A	-	①

< 基準値からの改善状況 >

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

2. 目標達成見通しの理由

「居住人口 [社会増]」については、令和4年から5年は受け皿となるマンション建設等がなかったことで▲133 人/年となったが、これまでの“住む場所”としての地域ブランディングの効果が根づいており、ソフト事業の「空き家活用・流通促進事業」の利用が好調なほか、今後予定されている「藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業」および「藤枝駅前一丁目9街区第一種市街地再開発事業」を核に人口増加が見込まれるため、目標達成できる見通し。

「昼間の歩行者通行量」については、毎年8月の夏季と2月の冬季で計測調査している。新型コロナウイルスによる外出制限等はなくなったものの、これまでの自粛ムードの余波による行動変容や記録的猛暑、デリバリー需要の拡大等により日常的な外出機運が低下している。一方で、新店舗開業による動きが活発になっていることや、今後予定されている「藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業」や「藤枝駅前一丁目9街区第一種市街地再開発事業」が進捗しているため、居住人口の増加とともに昼間の歩行者通行量についても目標を達成できる見通し。

「空き店舗数」については、新型コロナウイルスによる影響が薄れ、経済活動が再開されたことにより、空き店舗を活用した新規開業のほか、閉業に追い込まれる店舗等が減少したことで、対前年度比較で減少となった。中心市街地内の現地調査でも空き店舗等を改装工事している動きがうかがえるため、今後も新規開業や空き店舗活用への支援事業を継続していく中で、目標達成は可能と見込まれる。

「イベント来場者数」については、新型コロナウイルスによる制限が緩和されたことで、これまでと同等規模での開催が可能となった。令和5年度については計 12 回のイベントを開催し、来場者数は 60,000 人超を記録。「藤枝クラフトビール祭り」など新規事業者によるイベント企画も相まって、新型コロナウイルス前の来場者を上回る結果となった（参考：H30…53,833 人/年）。今後も民間事業者による新しいアイデアを取り入れたイベントが計画されているため、目標達成できる見通し。

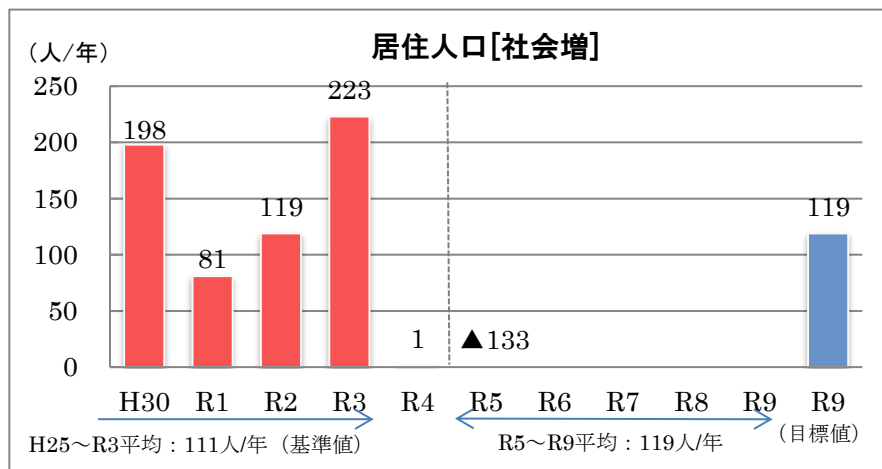
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「居住人口[社会増]」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 83～P. 86 参照

●調査結果と分析



年	(単位：人/年)
R3	111 (基準年値) H25～R3 平均
R5	▲133
R6	
R7	
R8	
R9	
R9	119 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳より集計

※調査月：令和5年12月

※調査主体：藤枝市

※調査対象：中心市街地区域内の居住者数

〈分析内容〉

居住人口[社会増]の増加に向けた各事業については、おおむね予定どおり進捗している。転出数については、過年度と比較しても大きな差はなかったが、転入数が大きく減少したことで▲133人/年の社会減となった。令和3年までは大規模マンションの建築が顕著だったが、新型コロナウイルスによる経済停滞や、物価高騰等の影響を受けたことで新築動向が希薄となった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業（再開発組合）

事業実施期間	平成22年度～令和11年度【実施中】 [認定基本計画：平成22年度～令和9年度]
事業概要	藤枝駅前商店街の中心に位置する立地特性を活かし、一体的かつ高度な土地利用により良好な居住環境整備とともに、商業や業務施設などの整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	準備組合において権利者の合意形成が整い、令和6年9月の都市計画決定を予定。順調に進めば令和8年に工事着手、令和10年に竣工予定。完了後には、212人の居住人口の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和6年度中の再開発組合設立認可申請を目指す。

②藤枝駅前一丁目 9 街区第一種市街地再開発事業（再開発組合）

事業実施期間	令和 4 年度～令和 9 年度【実施中】
事業概要	J R 藤枝駅に隣接する好立地にありながら、狭小な敷地に老朽化した建築物が密集し、商業店舗数が減少するなど衰退傾向にある当地区において、一体的かつ高度な土地利用により、良好な居住環境整備とともに、暮らしを支える施設の導入などを行い、“街なか生活サービス拠点”を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 3 年度に都市計画決定。その後、事業は順調に進捗し、令和 6 年 4 月に権利変換計画が認可された。完了後には、245 人の居住人口の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和 6 年度中に解体・本体工事に着手し、令和 8 年度末の竣工を目指す。

③空き家活用・流通促進事業（藤枝市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	市内の空き家（中古マンション含む）の取得、改修および移転に要する経費に対して助成を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度は年間目標の 50 件に対し、市内全体で 96 件の活用があり、そのうち中心市街地は 19 件だった。物価高騰の影響から新築動向が不振な一方で、中古物件が好調となった。
事業の今後について	今後も事業を継続実施することで、市内の空き家の有効活用及び流通促進を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

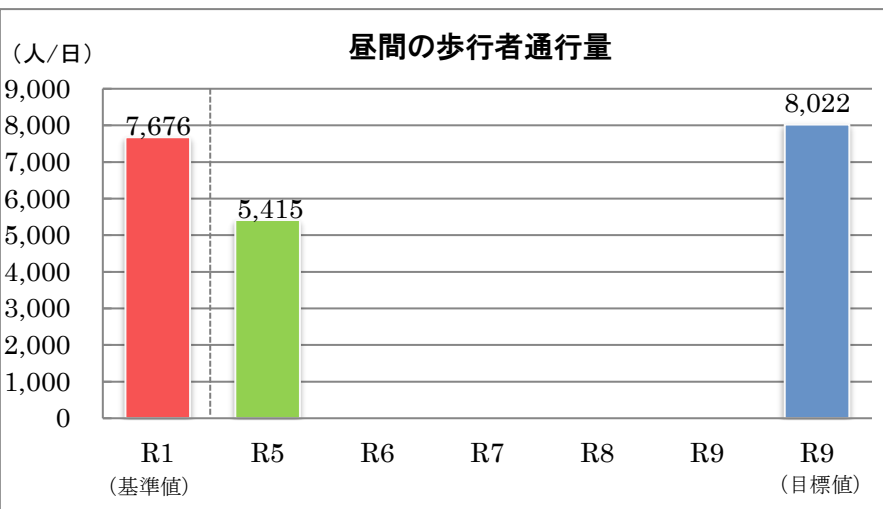
令和 5 年度は目標値 119 人/年（R5～R9 平均）に対し、▲133 人/年となった。「空き家活用・流通促進事業」を活用した転入は一定数あったが、新たなマンション等の受け皿がないことにより、転出者が転入者を上回った。

今後としては「藤枝駅前一丁目 6 街区第一種市街地再開発事業」および「藤枝駅前一丁目 9 街区第一種市街地再開発事業」だけでなく、民間のマンション建築が進捗していることから、居住人口の増加が期待される。また、「空き家活用・流通促進事業」についても中心市街地内の居住人口増加に寄与していることから、目標達成は可能と見込まれる。

今後もハード・ソフトの両面から様々なアプローチをすることで、着実に目標を達成していく。

(2)「昼間の歩行者通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 83～P. 86 参照

●調査結果と分析



年	(単位：人/日)
R1	7,676 (基準年値)
R5	5,415
R6	
R7	
R8	
R9	
R9	8,022 (目標値)

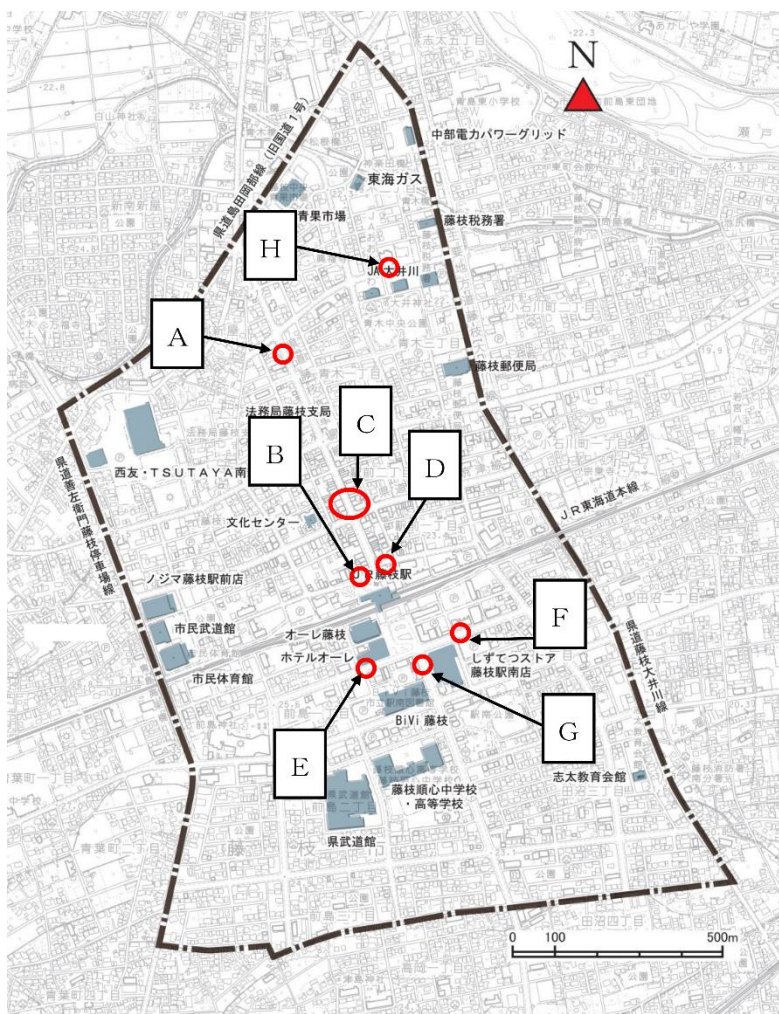
※調査方法：夏季及び冬季の平日・休日それぞれ9時～17時に計測し、平均値を調査

※調査月：令和5年8月、令和6年2月

※調査主体：藤枝市

※調査対象：JR藤枝駅南北主要8地点における歩行者

※調査地点図



(単位：人)

	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
地点A	193	190				
地点B	973	696				
地点C	525	465				
地点D	495	424				
地点E	1,407	1,227				
地点F	343	318				
地点G	2,078	1,930				
地点H	216	165				
合計	6,230	5,415				

＜分析内容＞

令和5年度の「昼間の歩行者通行量」は5,415人とコロナ禍と比較しても最も少ない数値となった。増加に向けた各事業についてはおおむね予定どおり進捗しているものの、新型コロナウイルス後の行動変容、連日の猛暑、デリバリー需要の拡大等により外出頻度が著しく減少したことで、8ヶ所すべての計測地点で前年度を下回った。藤枝駅前二丁目市有地有効活用事業や市街地再開発事業は事業スキームが長期になることもあり、効果として発現されるのは今後となる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①藤枝駅前二丁目市有地有効活用事業（藤枝市、島田掛川信用金庫）

事業実施期間	令和4年度～令和7年度【実施中】
事業概要	老朽化した「市営藤枝駅前駐車場」を解体し、その跡地を民間活力を導入し、駐車場機能を維持しつつ、広域都市機能を持つ新たな賑わい創出施設の設置を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和4年6月にプロポーザルにより業者決定。その後、令和5年4月に売買契約を締結し、令和7年12月の完成を目指し現在工事中。施設として1階は店舗営業ゾーン（金融機関ロビー）、2階は地域支援ゾーン（サテライトオフィス等）、3階は本部営業ゾーン（会議室、応接室等）として計画。
事業の今後について	2階の地域支援ゾーン（サテライトオフィス等）をオープンスペースとして活用することで、ビジネス環境を整備していく。

②開業チャンス！応援事業（藤枝市）

事業実施期間	平成 22 年度～【実施中】
事業概要	当該区域の空き店舗や商業施設の空きスペース等で新規出店する個人・団体又は建物の所有者に対し、建物改修費用や新規契約等初期費用、継続宣伝等費用等を補助し、伴走支援を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度は全体で 10 件の活用があり、うち中心市街地内は 6 件だった。例年 10 件前後の活用があり、コンスタントな支援が行うことができている。
事業の今後について	事業を通して空き店舗の活用等を推進し、空き店舗数の減少や昼間の歩行者通行量の増加に努めていく。

③藤枝駅前一丁目 6 街区第一種市街地再開発事業（再開発組合）【再掲】

事業実施期間	平成 22 年度～令和 11 年度【実施中】 [認定基本計画：平成 22 年度～令和 9 年度]
事業概要	藤枝駅前商店街の中心に位置する立地特性を活かし、一体的かつ高度な土地利用により良好な居住環境整備とともに、商業や業務施設などの整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和 2 年度～令和 6 年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	準備組合において権利者の合意形成が整い、令和 6 年 9 月の都市計画決定を予定。順調に進めば令和 8 年に工事着手、令和 10 年に竣工予定。完了後には、64 人／日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和 6 年度中の再開発組合設立認可申請を目指す。

④藤枝駅前一丁目9街区第一種市街地再開発事業（再開発組合）【再掲】

事業実施期間	令和4年度～令和9年度【実施中】
事業概要	JR藤枝駅に隣接する好立地にありながら、狭小な敷地に老朽化した建築物が密集し、商業店舗数が減少するなど衰退傾向にある当地区において、一体的かつ高度な土地利用により、良好な居住環境整備とともに、暮らしを支える施設の導入などを行い、“街なか生活サービス拠点”を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和4年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和3年度に都市計画決定。その後、事業は順調に進捗し、令和6年4月に権利変換計画が認可された。完了後には、74人／日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和6年度中に解体・本体工事に着手し、令和8年度末の竣工を目指す。

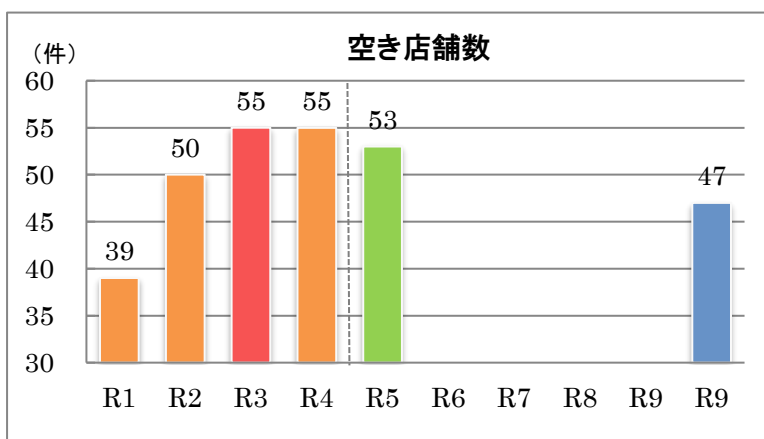
●目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗を活用した開業の動きが旺盛であることや、今後予定されている「駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業」および「駅前一丁目9街区第一種市街地再開発事業」を核に人口増加が見込まれるため、目標達成はできる見通し。

そのほか、イベントを継続実施する中で、中心市街地内の魅力を発信し、エリアごとに回遊性を持たせ波及させることで実績を伸ばしていきたい。

(3)「空き店舗数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 92～P. 95 参照

●調査結果と分析



年	(単位：件)
R3	55 (基準年値)
R5	53
R6	
R7	
R8	
R9	
R9	47 (目標値)

※調査方法：各商店街へ調査票送付

※調査月：令和6年3月

※調査主体：藤枝市

※調査対象：中心市街地内にある5商店街

〈分析内容〉

空き店舗数の減少に向けた各事業については、おおむね予定どおり進捗している。

「開業チャンス！応援事業」や「街なかストックリノベーション事業」など、開業に向けた支援施策により、空き店舗数の減少につながった。また、新型コロナウイルスによる影響が薄れ、経済活動が活発になったことで、閉業に追い込まれる店舗が減少したことも寄与したものと思われる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①開業チャンス！応援事業（藤枝市）【再掲】

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	当該区域の空き店舗や商業施設の空きスペース等で新規出店する個人・団体又は建物の所有者に対し、建物改修費用や新規契約等初期費用、継続宣伝等費用等を補助し、伴走支援を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和5年度は全体で10件の活用があり、うち中心市街地内は6件だった。例年10件前後の活用があり、コンスタントな支援が行うことができている。
事業の今後について	事業を通して空き店舗の活用等を推進し、空き店舗数の減少や昼間の歩行者通行量の増加に努めていく。

②トライアルスペース kokokara 運営事業（株式会社まちづくり藤枝）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の賑わい創出拠点施設「BiVi 藤枝」に設置した共同店舗の区画スペースにて、創業希望者や事業者が試行的に店舗を開設して経営体験を行い、街なかの賑わい創出と事業の実現性を高めていく起業支援を一体的に行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度は 586 件の申込みがあり、出店料売上は 978,500 円となった。前年度比では減少しているものの、その後の開業に向けた事業へと繋がるよう支援している。
事業の今後について	トライアルスペースの利用を促進することで、中心市街地での開業に繋げ、空き店舗の減少を図る。また、BiVi 藤枝と連携して駅南の賑わい創出を図る。

③街なかストックリノベーション事業（中心市街地リノベーション推進機構）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	トライアルスペース運営事業の次のステップとして、空き店舗等への出店に向けたプロセスや開業の支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度は 2 件の飲食店がオープン。平成 25 年より推進しているエリアブランド展開事業のもと、それぞれ地域のエリアカラーを取り入れた店舗へとリノベーションされた。
事業の今後について	本事業を活用して改装中のビルがあり、複数店舗の出店が見込まれている。今後も、積極的な情報発信やモデル事業の実施などを通じて、リノベーションによるまちづくりを推進し、空き店舗の減少を促進させる。

④エコノミックガーデニング推進事業（藤枝市、藤枝エコノミックガーデニング推進協議会）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	藤枝エコノミックガーデニング支援センター「エフドア」でのビジネス相談や情報提供、セミナーなどを開催し、地元企業の成長を支援する。また、産学官金で構成する協議会において、市内企業の業況等の情報共有を図り、課題、意見、要望等を集約する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	EG 支援センター「エフドア」におけるマッチング支援件数は 25 件、うち中心市街地域内の企業への支援は 5 件。また、アフターフォロー等を目的とした企業訪問件数はのべ 63 回、うち中心市街地内の企業への訪問件数は 11 件であった。エフドアを通して中心市街地内に開業した店舗も 1 件あった。
事業の今後について	エフドアを通して既存事業者や新規事業者へ支援を行い、空き店舗の減少を図っていく。

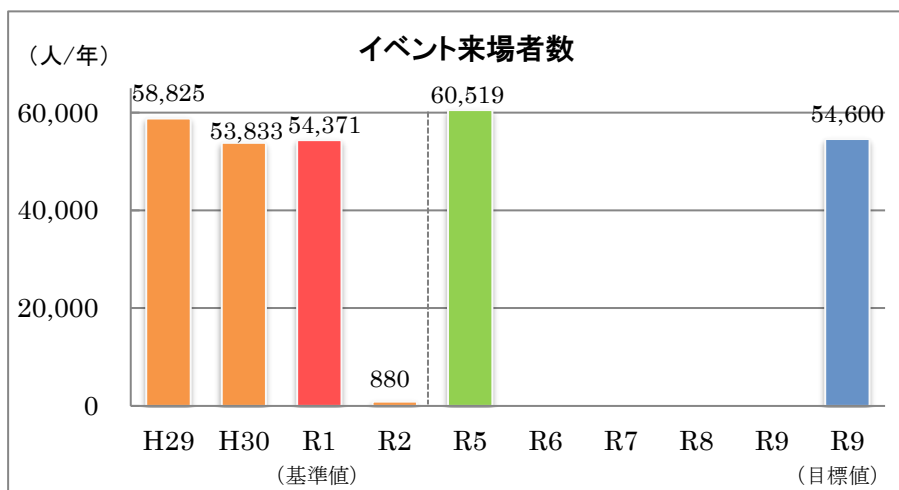
●目標達成の見通し及び今後の対策

様々な支援事業がおおむね順調に進捗しており、空き店舗数の減少に寄与している。中心市街地内の現地調査においても新規出店の動向が旺盛であることから、最終目標の達成に向けていい流れとなっている。

今後としては、事業自体を強力にPRしていくほか、販売又は賃貸する意思のある土地や空き店舗だけでなく、その他遊休資産も定期的に現地調査し、権利者にヒアリングするとともに、取得した情報を関係部局と共有・連携し、企業や店舗等の出店をサポートしていく。

(4)「イベント来場者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 96～P. 99 参照

●調査結果と分析



年	(単位：人/年)
R1	54,371 (基準年値)
R5	60,519
R6	
R7	
R8	
R9	
R9	54,600 (目標値)

※調査方法：中心市街地区域内のイベント来場者数を集計

※調査月：通年

※調査主体：藤枝市・(株)まちづくり藤枝

※調査対象：中心市街地区域内のイベント来場者

〈分析内容〉

イベント来場者数の増加に向けた事業は、コロナによる制限が緩和されたことで当初想定していた規模やスケジュールどおりに進捗している。

令和5年度のイベントは計12回開催。来場者数は60,519人と、久々のイベントということもありコロナ前の来場者数以上の実績となった。従来並みのイベント内容・規模で実施することができ、中心市街地の賑わいに大きく寄与した。2年に1度行われる「フード！スマイルフェスティバル」と同時開催でイベントを行ったことや、新たな企画として「藤枝ビール祭り」を開催したことが来場者数を底上げした。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①駅周辺広場・道路空間賑わい創出事業（藤枝市、株式会社まちづくり藤枝、実行委員会等）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	道路空間および駅周辺広場、公園等の既存ストックの有効活用による賑わい創出イベントやイルミネーション等の実施
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度は「て～しゃばストリート」を 8 回、「love local MARKET」を 4 回、計 12 回のイベントを実施。新型コロナウイルスの制限緩和だけでなく、久々の通常規模のイベントということもあり、60,519 人とコロナ前を上回るほどの来場者で駅周辺が賑わいをみせた。
事業の今後について	イベント内容が形骸化しないよう、民間事業者と連携しながらブラッシュアップすることで、イベント来場者数の増加を図り、賑わい創出を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は順調に進捗していることから、目標達成は可能な見込み。

観光やイベントの在り方等が新型コロナウイルスをきっかけに変化していることから、民間事業者と連携しながら時代のトレンドに合ったイベント内容を企画・運営し、来場者数の増加及び更なる賑わいを創出していく。

また、単にイベント来場者数だけでとらえるのではなく、イベントを通して中心市街地内の魅力を発信することで各目標指標の達成へと波及させたい。